

横瀬小授業スタイルについて

横瀬小ランドデザインから

「自他のよさを認め合い、主体的・対話的な学びができる児童の育成」

質の高い学力を身に付け、互いに認め合い高め合える児童

横瀬小授業スタイル3つの柱

1 司会力の向上

- 目指す司会力の明示
- 司会団の構成と役割
- 司会団の合言葉

2 話合いの充実

- 考え議論するため、学びを深めるための話合いの形態
- 話合いの視点の明確化
- 思考ツール

3 教師の効果的なかわり

- 教師の役割
- 発問の種類
- 振り返り
- チェックリストの活用

1 司会力の向上

◆目指す司会力の明示（低・中・高学年ごと、系統性）

育てたい力

低学年	<ul style="list-style-type: none">・マニュアルに沿って授業の進行ができる。・手を挙げている人を指すことができる。・先生と共に、クラスワークを進めたりまとめを考えたりできる。・振り返りで自分の考えや感想を伝えることができる。
中学年	<ul style="list-style-type: none">・マニュアルなしでも授業の進行ができる。・グループワークで出された意見を分類・整理して掲示できる。・必要に応じて、そう考えた理由を尋ねることができる。・先生と共に、話合いの論点を明確にしながら自分の考えや感想を伝えたり、話題を提案したりすることができる。
高学年	<ul style="list-style-type: none">・マニュアルなしで授業の進行ができる。・パーソナルワーク（PW）、グループワーク（GW）、クラスワーク（CW）での指示を考えて伝えることができる。・考えの根拠を訪ねたり、発問に沿って、質問を考えたりすることができる。・視点を変えて質問ができる。・話合いが停滞したとき、自分の考えを伝えたり、話題を提案したりすることができる。

◆司会団の構成と役割

- ・司会は、2人～4人を目安とする。
- ・授業の進行・時間管理
- ・発問に沿って、クラスワークを進める。
- ・質問や意見、感想を引き出す。
- ・感じたこと、考えたことを自分の言葉で伝える。
- ・必要な事柄を板書する。
- ・大事な言葉に線を引く。

◆司会団の合言葉

上手に司会を進めるための合言葉は…

「 **し** **か** **い** **だ** **ん** 」

おし **し** ……授業を「おし **しんこう**」しよう。

おか **か** ……「おか **かだい**」に対しての考えを深めよう。

おい **い** ……「おい **いけん**」をたくさん引き出そう。

おだ **た** おん **ん** ……「おだ **たいじな意見をば** おん **んしょ**」しよう。

2 話し合いの充実

◆考え議論するため、学びを深めるための話し合いの形態

- ・必要に応じて、PW(自分を振り返り、考えをまとめ、GWに参加するための準備をする)、GW(考えを共有したり、友達の見解から視野を広げたり、物事を多角的に見たりすることができるようにする)、CW(自分の中の納得解を見付け出し、考えを深める)をどのような順番で組み込むと児童の考えが深められるかを考え、授業を構成する。
- ・グループワーク発達段階や児童の実態、取り上げる内容項目に合わせて、ペア学習を取り入れたり、グループ編成を考えたり、机の配置を変えたりしている。

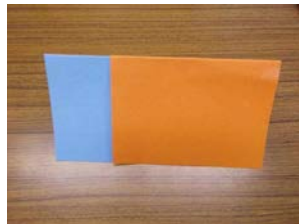
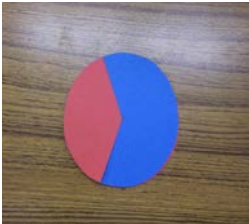


◆話し合いの視点の明確化

- ・GW, CWにおいて話し合いを始める際には、「合意形成」にならないことを押さえ、何についてを話し合い、CWに向けて何をボードにまとめ発表するのかについて明確にする。
- ・「合意形成」にならないようにするため、話し合いは考えを交流することが目的であり、多様な考えに触れ、自分の考えを改めて構築していくために行っていることを指導者が頭に入れて授業を構成していく。

◆思考ツール

- ・アナライザーを使い、自分の立場を明確にするとともに、多様な価値観に気づき、考えを深められるようにする。



- ・心情メーターを使い、授業を通して自分の考えの変容に気付いたり、クラス全員の立場や考えを知ったりすることができる。



3 教師の効果的なかかわり

◆教師の役割

低学年	・教材の範読, 内容の確認 ・意図的指名 ・板書	・補助発問 ・説話
中学年	・教材の範読, 内容の確認 ・意図的指名 ・板書の補助	・補助発問 ・説話
高学年	・教材の範読 (児童が読む場合もある), 内容の確認 ・補助発問 ・意図的指名	・話し合い中の軌道修正 ・板書の補助 ・説話

◆発問の種類

【基本発問】

- ① 共感的発問
「～の時, ●●はどんな気持ちだっただろう」
- ② 分析的発問
「なぜ●●はそのような行動をしたのだろう」
- ③ 投影的発問
「もし自分が●●だったらどうしただろう」
- ④ 批判的発問
「●●の行動は本当によかったのだろうか」

【補助発問】

- ① ゆさぶる発問「本当に○○でよいのかな？」
- ② 広げる発問「○○という立場から考えたらどうだろう。」
- ③ しぼる発問「一番大切な考えはどれだろう。」

◆振り返り

授業の終末に学習で学んだことや考えたことを自分の言葉でワークシートに書く時間を設ける。各学年の発達段階や実態に合わせた振り返りの視点を掲示し、それを参考にしながら字数制限を設け、時間内に要約して書くことができるようにする。

〈ふりかえりの視点〉

1 今までの自分の生活

2 今日の学習で学んだこと

3 これからの生活について

※3つの視点をさん考に、100字程度で書きましょう。

【振り返りの視点(高学年)】

「考え、議論する道徳」チェックリスト

★授業構想を立てたり、授業後、チェックリストで見直してみよう。

チェック	項目
	資料の読み取りや登場人物の心情理解に偏った授業になっていないか。
	考えの根拠を尋ねる問い返しをしているか。
	自我関与を促す発問になっているか。
	価値理解に迫る発問(問い返し)があるか。
	人間理解に迫る発問(問い返し)があるか。
	他者理解に迫る発問(問い返し)があるか。
	別の視点からねらいとする価値について考える問いを設定しているか。
	児童の本音を引き出したりする補助発問(問い返し)を準備しているか。
	展開前段で話し合ったことが、展開後段に生かされているか。
	自己の実察に気付く問いを設定しているか。

【チェックリスト】

◆チェックリストの活用

チェックリストを使って、授業構想を立てる際や、授業後の振り返りとして活用する。授業を見る際にも活用し、教師間で統一の視点をもって、相互参観ができるようにする。価値理解から人間理解に迫る話し合いができるよう、教師自身が授業にどのようにかかわっていけばよいか見つめ直すことができるようにする。

学力向上への取組

神栖市立横瀬小学校

1 神栖市学力向上プロジェクト（井上プロジェクト）スタートからの取組

- ・平成25・26年度 神栖市教育委員会・神栖市教育会指定研究発表
研究テーマ「筋道を立てて考え、表現する力を育てる算数科学習の在り方」
- ・平成28・29年度 人権教育総合推進地域事業協力校
研究テーマ「未来をひらく 一人一人を大切にした 心豊かな児童の育成」

2 授業研究部を中心とした学力向上の取組

① 神栖市授業スタイル研修

- ・授業スタイルの確認と共通理解



【年度始めの職員による模擬授業】



【単元計画作成の提案授業】

② 横瀬小授業スタイルの継続的实践

- ・毎日の積み重ね、各教科での取組

話し合いレベルアップ大作戦
～みんなのしつ間や意見で考えを深めよう！～

<p>☆話す人、発表する人 相手に分かってもらえるように ① しつ間をよく、ゆっくり、はっきり説明しよう。 ② 一生けん命考えて、しつ間にも考えよう。 （こまった時は、みんなが先を助けてあげよう。）</p>	<p>☆聞く人 相手の話を耳、耳、心を使って聞きましょう。 ① 自分の考えと比較しよう。 ② しつ間を覚えておこう。 （しつ間したことは、みんながいっしょに考えよう。）</p>
---	--

1. 理由をたしかめる
「～について）なぜ、そう考えたの。」
「～について）どうして、そうしたの。」
「そう思う理由を教えて。」
「どのような考えをもとにしたの。」

2. くわしく聞く
「～について）もう一度、教えてくれる。」
「～について）もう少し、くわしく教えてくれる。」
「その～はどこから分かったの。」
「この～の意味を教えてくれる。」

3. 考え方を比べる
「〇〇さんと〇〇さんの～は、同じ（ちがう）と思うなあ。」
「〇〇さんの考えがわかりやすいな。」

4. 考えを言いかえる
「つまり、～ということでもいいの。」
「たとえば、～ということかな。」

☆もし分かっていることでも、しつ間や意見を伝えることでよりよい考えに近づいていけます。みんなで協力して話し合いをレベルアップさせていこう。

【話し合いレベルアップ大作戦（4年 算数）】



【グループワーク（5年 道徳）】



【児童の司会団（2年 道徳）】

③ 学習計画表

- ・児童が主体となって立てる単元の学習計画
- ・自分たちが立てた課題に対する振り返り

5の__ ()

時間	日	学習について	自己評価 ○●△	振り返り
①	/	課題 単元の学習計画を立てよう		
②	/	課題 小教でわる計算のしかたを考えよう		
③	/	課題 小教でわる計算のしかたを考えよう		
④	/	課題 小教でわる計算のしかたを考えよう		
		課題		

④ ヨコロくんガイド(Aファイル)

- ・学習に活用できる汎用的なもの
- ・完全に習得すべき内容を精選したもの

学習の進め方

【司会の基本的な流れ】

- ①あいさつ
- ②課題の確認
- ③パーソナルワークの指示
- ④グループワークの指示
- ⑤クラスワークの進行

例1 それぞれの班の意見を掲示し、交流する。
例2 班の意見を整理して掲示し、話し合う。
例3 代表の意見を掲示し、話し合う。

上手に話し合いを進めるときの言葉 例

※ ~の考えに賛同や意見、感想はありませんか。

司会は 意見を つなぐ 役目があります。
友達のことを 大切に 学習を進めましょう。

司会の心得

- ・ ぎゅ
- ・ うげとめる

ひき算

(1年)

10までのひきさん
しき $10 - 0 = 10$ ことえ 10 (にん)
・ 0のあるひき算
しき $10 - 0 = 10$ ことえ 10 (にん)
・ くりさがりのあるひきさん
しき $13 - 9 = 4$ ことえ 4 (にん)

$\begin{array}{c} 10 \\ \quad 3 \end{array}$

 13 のなかの 10 から 9 をひいて 1
 1 と 3 をたして 4

・ 100になるまでのひきさん
しき $50 - 20$
5-2のかんがえをもとにする
10がいくつでかんがえる

(2年)

・ 2けたのひき算
一の位と十の位どうしを計算する。
 $58 - 27 = (50 - 20) + (8 - 7)$

< 語句 >

ひきさん
- (ひく)
= (は)
ひきさん
くりさがり
くりさがり

一の位
十の位

【司会団の話合いの進め方や心得(汎用)】

【1年から6年までのひき算と関連語句(算数)】

⑤ 授業研究の進め方 (1つの指導案で3回研究授業を実施)

- ・指導案の共同立案, プレ授業の実施, 授業反省会の実施 ※PDC Aサイクルを確立し, 指導力向上を図る。

